

箱書・貼札および附属文書類の釈文

鶴見大学 小 池 富 雄

No. 2 M1420

黒漆棗 庸軒好 附属文書



【極め札・蓋表墨書】
1 反古庵庸軒望月棗

古筆了意老極札

【極め札・彩箋墨書】
2 (表) 藤村反古庵庸軒

望月棗朱漆蓋裏銘
箱蓋裏書付名判アリ
外箱蓋裏比喜田(多)松齋書付(朱印)

3 (裏) 柳宮

古筆目利隠居
癸巳三(天保四年一八三三か)
(朱印「古筆神田」了意(花押))

No. 6 M1438

黒漆小棗 宗旦好 箱書・貼紙及び附属文書

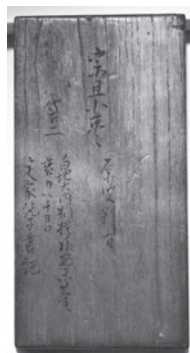
【内箱蓋裏墨書】

宗旦棗
覚々判書
左（花押）（表千家七代 如心斎）



【外箱蓋表墨書】

宗旦小棗 原叟判有
袋二
白地大内桐模様安楽庵
裏カヘチヨロ
定家純子裏紙



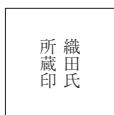
【外箱貼紙墨書1】

宗旦小棗袋二
（定家純子）
原叟判如心箱ティカトンス
（問道）
カン嶋



（朱印）

織田氏
所蔵印



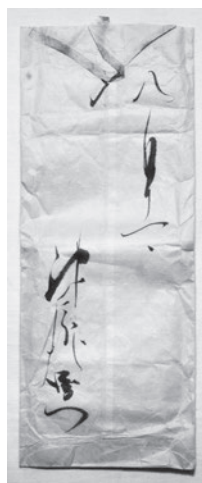
【外箱貼紙墨書2】

茶 一十二
原叟判
黒小棗



【添状1 封筒表】

織田恒兵衛様
四種添
拝借の
御風呂敷返上仕候



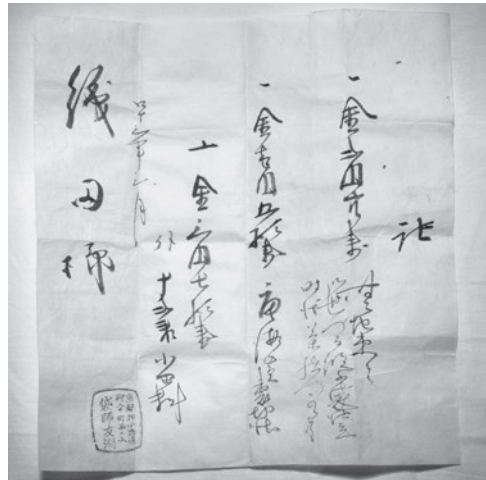
封筒裏

【添状1 封筒裏】

八月廿一日
メ
神右衛門



封筒表



【添状2】

記

一、金貳円廿銭 無地棗

(蔓)

笹つる緞子袋仕立

時代茶紐つかりとも

一、金壹円五拾銭 唐海黄裂

メ 金三円七拾銭

外 十貳銭 小間料

(明治) 四十三年三月

(墨印)

織田様

京都押小路通
御幸町西の入
袋師友湖



【添状3】

副伸

利休中棗、箱寛々斎

書付、是は私珍藏

二御座候得共、御懇望

難黙二付、割愛仕候、

何卒御珍愛被下候ハ、

本懐之至に御座候、敬白

申

八月十一日 吟秋

織田茶伯

No. 7 M1423

黒漆紫陽花蝶時絵棗 箱書

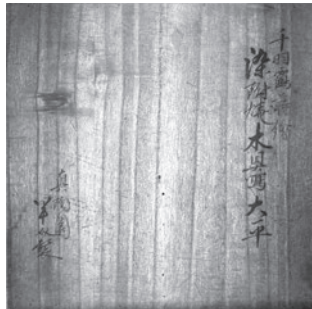


【箱側面墨書】

時代八幡花時絵

No. 45 M1357

千羽鶴時絵染付木具写太平鉢 箱書



【箱内底面墨書】

千羽鶴時絵

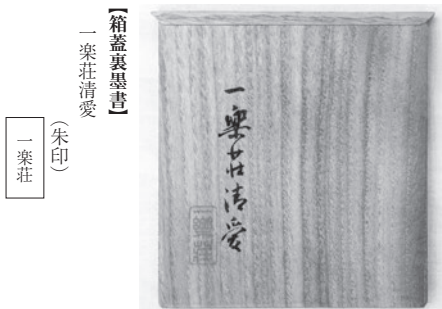
染附焼木具寫大平

眞陶園

半介製 (朱印)

No. 77 M1500-1

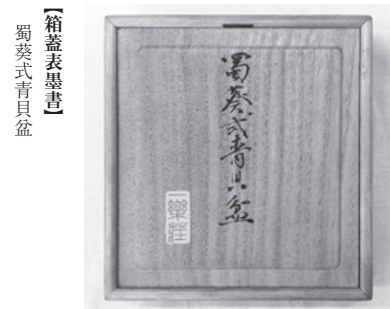
黒漆六角螺鈿捻花文皿 箱書



【箱蓋裏墨書】
一楽荘清愛

(朱印)

一楽荘



【箱蓋表墨書】
蜀葵式青貝盆

貼札朱印

一楽荘

No. 87 M1734

木地丸脚附卓

略傳
俗称喜六、壺齋と号す。幼時越後におもむき。木戸玄蕃の養子となり、和歌を学ぶ。玄蕃死後京師に歸る、慶長五年大津攻に先陣し、負傷す。永井直勝に迎えられ、臣となり駿府に戻る。大阪陣には智謀の士として、蜂須賀至鎮に感賞された。直勝の死後尚政淀城に封ぜられるや、昌俊留守居の時、尚政に無断で貧窮の士を救うため城の金を流用したことから尚政と意見を異にしてみずから罷め、山城萩の里に隠栖し黙々庵を結ぶ。松花堂、木下長嘯子、林道春と交わり。茶は遠州門。
寛永二十年八月三日卒す。六十五才

【便箋ヘン書】

佐川田昌俊

【箱書蓋裏墨書】



昌俊在判

寸松庵
什物